

おもしろい本 みつけた!

《中学生・高校生》

1年の間に図書館に入った本を中心に、幅広く
おもしろい本を紹介します。

茨木市立図書館 おもしろい本みつけた

検索

ホームページにものっています。

★気になる本をみつけたら、さっそく探してみよう



796-17
(将棋)

2017年9月

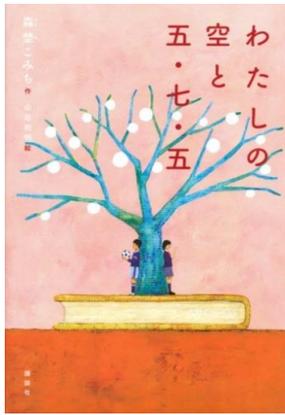
『藤井聡太 名人をこす少年』

津江 章二 作

(日本文芸社)

将棋の様々な最年少記録を塗り替え続けている、藤井聡太さんの過去・現在・未来について書かれた本です。

62歳の年の差がある加藤^{ひふみ}一二三九段との対決から始まる数々の対局の様子はもちろんのこと、将棋界のプロたちが語る強さの秘密や、小さい頃のエピソード・写真などもふんだんに使われています。この本が書かれたのは2017年、藤井聡太さんは四段でした。皆さんがこの本を手にする時、彼はどこまで進化しているのでしょうか。



ニーモリ
(日本の小説)

2018年2月

『わたしの空と五・七・五』

森楚 こみち 作

(講談社)

あなたの得意なことって何ですか？空良ちゃんにとって、それは「ことば」でした。

中学生になってまもない頃、教室の空気に違和感を感じていましたが、文芸部に入って居場所をみつけた空良ちゃん。句会（自作の俳句を持ち寄って、いいのを選ぶ会）でもいい作品を残します。俳句について学べて、友人関係や気になる男子も登場する青春小説です。



K380
(文化)

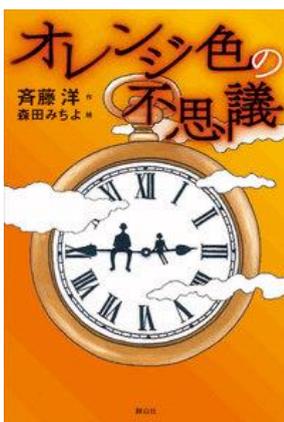
2017年11月

『カレーライスを一から作る 関野吉晴ゼミ』

前田 亜紀 作

(ポプラ社)

誰でも知ってるカレーライス。でも、すべてを一から作ったら一体どうなる？探検家・関野吉晴さんが、大学生たちと挑戦した9か月の記録です。世界中を旅してきた関野さんは、自分が暮らしてきた足元の世界を知らなかったことに気づき、この計画を考えました。物事の原点を知ること。その大切さを学生に伝えたいと思ったのです。食器から食材まで手づくりすることになり、様々な経験をする学生たち。そして、食べるために飼った鳥を殺すことについて迷いが生まれた時、私たちが生きるためにたくさんの命を必要としていることを学生たちは自覚します。カレーライスは無事に出来るのでしょうか？



ニーサイ
(日本の小説)

2017年7月

『オレンジ色の不思議』

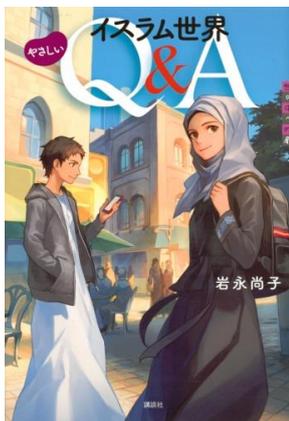
斉藤 洋 作

(静山社)

作家の「わたし」は、不思議なことに、行く先々でたびたび正体不明の、ある少女に出会います。口が達者で「わたし」をけむに巻くようなことを言って振り回す少女。

「わたし」はその少女に声をかけられるたびに、いろいろな不思議を見ることとなります。その不思議は少女に見せられているのでしょうか？

毎回、どこかしらにオレンジ色が現れます。ちょっと怖いような不思議な世界を体験してみてください。



K160
(宗教)

2017年10月

『イスラム世界 やさしいQ&A』

岩永 尚子 作 (講談社)

皆さんは「イスラム教」、または「イスラム世界」にどんなイメージを浮かべますか？ そして、どんなことを知っていますか？ この本にはイスラム教の成り立ちから、イスラム教徒の生活、イスラム世界を取り巻く複雑な歴史と政治の疑問が、やさしく解説されています。

近年のテロ事件や中東での内戦などから、「イスラム」に何となく怖いイメージを持っている人もいませんか。「知る」ことによって、それを「好奇心」に変え、「共存」へとつなげてほしい。この本には、そんな著者の思いも込められています。



K360
(社会福祉)

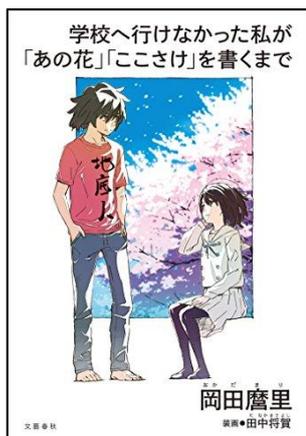
2017年11月

『髪がつながる物語』

別司 芳子 作 (文研出版)

「ヘアードネーション」とは何か知っていますか。それは、長くのびした自分の髪を寄付することです。寄付された髪は加工され、医療用ウィッグとして、病気やその治療で髪の毛を失ってしまった子どもたちのもとへと届けられます。

この本では、日本でこの活動を行うべく設立されたNPO「JHD&C」を中心に、大切な髪を寄付する人の思いと、ウィッグを希望する子どもたちの思いが語られています。



916-オ
(ノンフィクション)

2017年4月

『学校へ行けなかった私が「あの花」「ここさけ」を書くまで』

岡田 磨里 作 (文藝春秋)

作者が脚本を手がけたアニメ「あの花の名前を僕達はまだ知らない。」「心が叫びたがってるんだ。」が大ヒットし、舞台となった秩父が全国からファンの訪れる聖地となりました。そしてその地は、作者が生まれ育った故郷でもあり、小学校から学校に行けなくなり閉塞感を感じていた地でもあったのです。

自分には無縁だと思っていた「外の世界」といかにして出会い、つながり、今があるのか。作者自身が語る、シナリオライターになるまでのストーリーが、とてもリアルに感じられます。



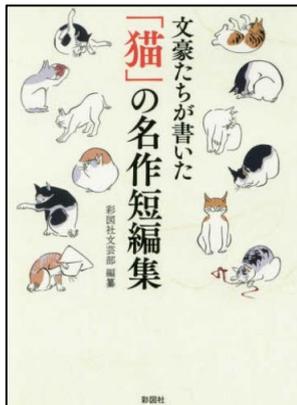
Fーサト
(日本の小説)
2017年3月

『スウィングしなけりゃ意味がない』

佐藤 亜紀 作

(KADOKAWA)

ナチス政権下のドイツでジャズに熱狂する不良少年たちの青春群像です。ジャズはナチスの政権下では敵性音楽であり、禁止されていました。しかし、ジャズに熱中する若者たちは、あらゆる手を使ってジャズを聴き、演奏しようとしています。どんなに弾圧されても、したたかに、ユーモアたっぷりに自分たちの生き方をつらぬく若者たちの姿が、痛快です。時代の圧力の中で人間としての誇りや自由を、どう守り抜くかというテーマは、戦時下の物語ですが、今の時代に深く切り込んでいく強さがあります。徹底的な歴史検証と大胆不敵な展開は迫力満点で、読み通したあと、深い満足感があります。



Fーサイ
(日本の小説)
2017年12月

『文豪たちが書いた「猫」の名作短編集』

彩図社文芸部 編

(彩図社)

猫の絵を描く少年を主人公にした、ほんのりと怖い昔話を書く小泉八雲。猫の魅力をもたすら書き綴った谷崎潤一郎。愛猫チビと過ごした10年間に振り返る佐藤春夫。猫に関する少し残酷な妄想を繰り広げる梶井基次郎、等々。誰もが一度は耳にしたことがある有名な作家達が生きた、猫にまつわる短編小説やエッセイをまとめた本です。

笑いあり、涙あり、そして恐怖ありの様々な猫の魅力がたっぷり詰まっています。

2018年には、「犬」バージョンも出版されました。

★「読みたいな」と思った本の予約・問い合わせは、下の図書館までお願いします。

中央図書館	☎627-4129	畑田町1番51号
中条図書館	☎622-2476	東中条町2番13号
水尾図書館	☎637-4416	水尾三丁目3番18号
庄栄図書館	☎620-1171	庄二丁目26番12号
穂積図書館	☎620-1056	松ヶ本町8番30号 イオンモール茨木内

編集・発行：茨木市立図書館

発行日：平成30年(2018年)10月

*本の表紙は出版社の許諾を得て掲載しています。